

2024

# 6.17 平和のつどい

## ～鹿児島市大空襲～

「過去から学ぼう 平和の大切さ」～語りつごう 戦争の実相を!～



空襲の後の鹿児島市内、城山の火の見櫓(当時)から1945年11月撮影。  
この記録を撮られた平岡正三郎さん。2013年3月24日 永眠。



### 「6.17」とは

1945年6月17日は、鹿児島市が米軍の大空襲を受け、死者2,316人、負傷者3,500人、罹災戸数11,649戸、市街地の9割が焼け野原になるという、県内で最大の被害が出た日です。今年では79年目にあたります。

### 本日のスケジュール

10:00 開場

- 10:30
- ・実行委員長あいさつ
  - ・体験談 ●石神 齊也さん
  - ・平和の取り組みの報告
  - 沖縄戦跡基地巡り参加報告 ●出水戦跡DVDの視聴と報告
  - ・「6.17実行委員会からのメッセージ」～みんなで平和を考えよう～
  - ・「青い空は」

12:30 閉会

## 実行委員長あいさつ

1945年6月17日、鹿児島市は米軍の大空襲を受けました。市内のほとんどが焼け野原となり、死者・負傷者合わせ5,816人と、県内最大の被害に遭い、平穏な日常は一夜にして失われました。

私達は、この悲惨な出来事、戦争の愚かさをおぼえてはならないと、毎年6月17日に「6.17 平和のつどい」を開催し今年で39回を向かえます。今年も、県内各地から集まった実行委員で準備を進めてきました。

これまで関わってくださった多くの方々の平和への想いを引き継ぎ、こうして6月17日に開

催できることに大きな意味合いを感じています。

しかしながら、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルによるガザ地区侵攻など、世界では未だ紛争が絶えず、多くの尊い命が失われています。日本にとっても、決して他人事ではありません。

今こそ、過去から学び悲惨な戦争の実相を知り、平和について語り合ひましょう。

来年は戦後80年。争いのない世界を実現するために私達に何ができるのか、みんなで考えましょう。

(6.17平和のつどい実行委員長 柳田 幸代)

## 6.17大空襲、戦争体験の語り継ぎ



いしがみ まさなり  
石神 齊也さん(91歳)

当時13歳、加治屋町で空襲を体験しました。自分は空襲警報には気づかなかつたが母親に起こされて、一緒に外に出た。母親はバケツと布団を取りにもどつた、自分達で作つた防空壕にむかつたが、中にはいれず、火が回つてきたので甲突川河川の土手に掘つていた防空壕に逃げた。川に飛び込んでいた方もいた。ものすごく怖くて膝がガチガチ、口が譫々だったことを覚えている。学校では、アメリカ兵をイメージした藁人形を作り竹槍で突く練習などもしていた。日本国民は戦争に負けることはない、勝つものだと教え込まれていた。

現在の石神さんは、中央駅などで戦争法の問題、現在の馬毛島や鹿児島県内の軍事化について知らせる活動を行っています。学生さんに「戦争ってどう思う」などわかりやすく教えながら対話活動を行っています。

## 平和の取り組みの報告

### 沖縄戦跡 基地巡り参加報告



◀参加者のみなさんです



▲今から糸数壕に入ります

### 出水戦跡 DVDの視聴と報告



◀戦闘指揮所の中



◀特攻公園にある英霊の碑



▲掩体壕の前で説明を聞いています

## 6.17実行委員会からのメッセージ

「戦争の実相※を知らない」私たちは過去を学び、現在の状況と見比べ、平和な未来を作っていかなければなりません。今年は戦後79年、あの戦争を経験された方々は高齢となり、亡くなられたり、その体験を語り継ぐことが難しくなっています。

私たち生協コープかごしまは「よりよき生活と平和のために」の思いのなか、かつての戦争の実相を知って、そしてそれぞれが平和について考えてほしいという願いから“6.17平和のつどい”を毎年開催しています。戦争は人を殺し合うだけでなく、地球環境の破壊でもあり、武力によっては決して問題の解決にならないことを認識することが大切です。

私たちのくらしは全て政治とつながっています。政治が間違った舵をとれば、私たちも過去と同じ戦争へ巻き込まれていきます。

6.17実行委員会では、これからも平和のシナリオを描き続けるために、以下の3つのことを呼びかけます。

- 政治に関心を持ちましょう。
- 憲法学習会や平和の取り組みに参加しましょう。
- 思いを声に出し、伝えていきましょう。

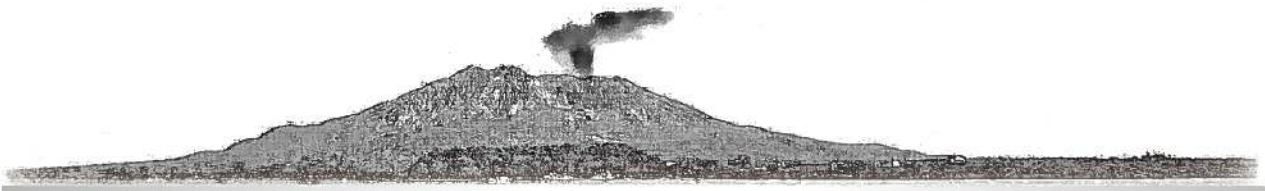
生活協同組合コープかごしま  
6.17平和のつどい実行委員会

※実相…実際のありさま。ありのままの姿

### ♪平和のうた♪ 青い空は

小森 香子 作詞  
大西 進 作曲

青い空は青いままで  
子どもらに伝えたい  
燃える八月の朝  
影まで燃え尽きた  
父の母の 兄弟たちの  
命の重みを 肩に背負って 胸に抱いて



## 生協コープかごしま 年間の平和の取り組み

生協コープかごしまでは、「安全・安心な暮らしは平和であってこそ」の立場から、組合員とともに平和を考えるさまざまな活動を行ってきました。

戦争体験を語り継ぐつどいや、平和憲法の学習会、募金活動など、生活者の立場から平和を考える学習会やイベントを開催しています。

### ◆5月 - 「憲法記念日市民のつどい」

『憲法記念日市民のつどい』は1997年の憲法施行50周年を機に「憲法の意義を知り、くらしに生かすこと」を目的に、広く市民に呼びかけ、憲法と平和を学び考える機会として、講師を招いての講演会をメインに毎年5月3日に取り組んでいます(2024年で28回を迎えました)。

### ◆5月～8月 - 平和募金

平和募金は、誰でも参加できる平和の取り組みとして、私たち生協コープかごしまの平和活動を自分たちの手で支える活動として取り組んでいます。

### ◆6月 - 「6.17平和のつどい」

生協コープかごしまは、鹿児島市への大空襲があったこの日を「6.17平和のつどい」として、戦争体験の語り継ぎや平和学習を通して、平和について考える機会としています。組合員で実行委員会を構成し、毎年6月17日に実施しています(2024年で39年目を迎えました)。

### ◆7月～8月 - 平和映画会・平和学習会

平和映画会は夏休みを中心に、子ども企画として各地域で行われます。平和の大切さについて学び、大人から子どもへ平和への思いを伝える機会になっています。その他にも平和紙芝居や絵本の読み聞かせ、戦争体験者の話を聞く、戦跡めぐり、開発途上国に住む子どもたちの置かれた環境を考える「ユニセフ学習会」を実施しています。

### ◆8月 - 長崎平和の旅

8月7日～9日に被爆した長崎の地を訪れ、被爆体験を含めて見聞きし・継承し、平和について考え合う企画です。夏休みの企画ですので、平和学習会同様に親子でも参加してもらい、親子で平和を語り合う機会と位置づけています。

### ◆1月 - ユニセフお年玉募金

生協コープかごしまでは毎年ユニセフの募金活動に取り組んでいます。1979年の国際児童年に、「バケツ一杯の水を送ろう」とユニセフ募金に取り組んだのをきっかけに、1984年以降は毎年取り組んでいます。また、1988年からは「ユニセフお年玉募金」として毎年1月を中心とした取り組みを行っています。

### ◆3月 - 沖縄戦跡・基地めぐり

沖縄の戦跡と基地を見学することにより、沖縄戦の実相を学び現在の沖縄における諸問題を考えてるとともに、これからの平和をめぐる課題について考え合う機会と位置づけています。一般的な情報による沖縄の理解だけでなく、地元の生活者としての視点から平和に対する問題提起も聞け、沖縄で起こった事実と現状を正しく理解し、そこから日本や世界を見て平和問題を考える機会と位置づけています。

### ◆年間を通じて - 県下各地域での憲法学習会

生協コープかごしまのスローガン「よりよい生活と平和のために」の実践として憲法学習会を県下各地で行っています。昨年度よりオンラインによる取り組みをはじめました。講師は大学の先生や弁護士などの協力をいただきながら進めています。

